

島地川ダム 高瀬湖だより



島地川ダムの防災操作の学習をしました！



島地川ダムは完成して40年が経過し、幸いにも管理開始から現在まで、ダム下流では大きな水害は発生していません。

11月16日に周南市和田市民センターで開催された「令和3年度 和田地区自主防災協議会」の研修会で、参加された自治会長や地区の防災委員の皆様は「島地川ダムの運用について」と題し、島地川ダムの目的や防災操作、ダム情報の収集方法等についての講演を行いました。

ダムによって安全であることが日常となっている皆さんにその運用について改めて知っていただくことでダムの働きを理解して頂きました。

講演の後、参加者によって防災用の備蓄土嚢作りが行われました。

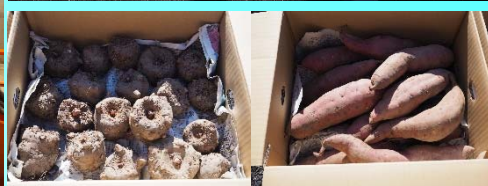
和田地区で採れた“おいも”にダムが魔法をかけます。

島地川ダム下流の和田地区を中心とした休耕田を利用して作られている「さつまいも」と「こんにゃくいも」、島地川の豊かな水で育っています。今年も沢山採れましたが、芋などそのままの状態では放置しておくと、冬の冷え込みで中の水分が抜け腐って（カゼをひいて）しまいます。

そこで登場するのが、島地川ダムの堤体内にある利水放流管副バルブ室。ここは一年を通じて気温が20度程度と安定していることに着目して、採れたさつまいも等をバルブ室で一時保管することにより、保存性が増すとともに、さつまいもは自体が追熟し、糖度が増して美味しくなります。

魔法を掛けられたさつまいもは「焼き芋」として月に一度行われる「和っ彩マルシェ」や「高瀬千石市」で販売されます。

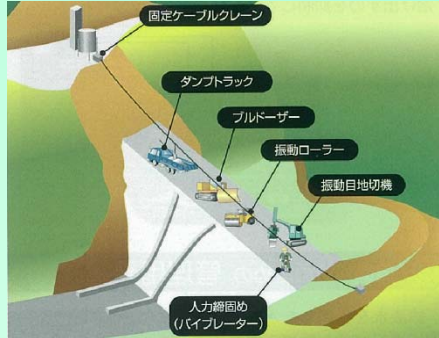
ダム魔法のかかった「おいも」一つ食べてみられてはいかがでしょう？



島地川ダムは今年で生誕40年 ～ 建設時を振りかえる ～



ダンプトラックによるコンクリートの運搬



島地川ダムは昭和35年・47年の洪水、そして周南地域の慢性的な水不足を解消させる目的で昭和47年に計画・同49年に工事着手、そして計画から10年後の昭和56年8月に完成、翌57年度から管理に移行しました。

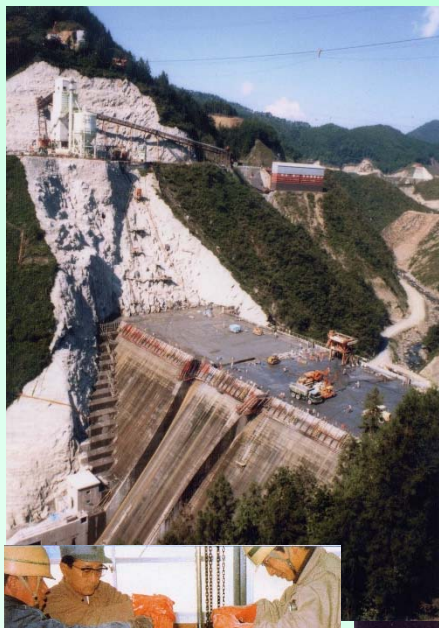
ダム建設は、RCD工法(Roller Compacted Dam Concrete)というスランプゼロの超固練りコンクリートを層状に積み重ねて、ローラーで転圧、ダムを施工するという世界初の画期的な工法が採用されました。この時得られたデータや研究結果等により、島地川ダムの建設以降、国内外の多くのダムでこの工法が採用されています。現在はその工法をさらに進化をさせICTやAI技術を取り入れた、最新の技術でダムが造られています。



コンクリートの上を重機が走っている



スランプゼロコンクリートの敷き均し



24時間施工でダムが建設された



40周年記念
ダムカード



次のダムへ受け継ぐ為の
様々な試験も行われた。



高瀬湖だよりに関する問い合わせ先

発行者／国土交通省 中国地方整備局
山口河川国道事務所 島地川ダム管理支所
住所／〒746-0101
山口県周南市大字高瀬257
TEL(0834)67-2878 FAX(0834)67-2427
○ホームページ(山口河川国道事務所)
<http://www.cgr.mlit.go.jp/yamaguchi/>
○Twitterやっています。
佐波川Twitter @mlit_sabagawa
山口河川国道Twitter @mlit_yamaguchi



佐波川Twitter



編集後記

梅雨明け後も長雨が続き、特に8月12日からの降雨ではダム流域内で430・6ミリと歴代最大の降雨がありました。幸運にも大きな被害発生にはいらず、無事出水期を終えました。

今年はダム完成から40年ということもあり、40周年記念ダムカードを発行しました。

新型コロナウイルスのまん延が落ち着いていることもあり、連日ダムカードを求めている来訪者が多くあります。来訪されるときはコロナ対策を忘れずをお願いいたします。

(k・s)